

試験結果

・試験名 ウイルスを用いた抗ウイルス性能評価試験

試験結果報告書

・試験方法 HAT培養法

・施設会社 株式会社 プラザ・オブ・レガシー 様

・施設会員名 (住所 〒515-0014 三重県松阪市若葉町87-8)

・試験者名

・試験ウイルス名 1) *Influenza A virus* H3株 (ヒトカリシウイルス、ATCC VR-782)

宿主細胞 HEK細胞 (ATCC CCL-34)

2) *Influenza A virus* A/Hong Kong/8/68株 (A型インフルエンザウイルス、ATCC VR-1679)

宿主細胞 HEK細胞 (ATCC CCL-34)

・作用条件 作用時間 1~5分

作用濃度 最適

ウイルスを用いた抗ウイルス性能評価試験

試験は、試験ウイルスの感染性を測定するため、各ウイルスの希釈液を用いて、各ウイルスの感染性を評価する。各ウイルスの感染性を測定するため、各ウイルスの希釈液を用いて、各ウイルスの感染性を評価する。各ウイルスの感染性を測定するため、各ウイルスの希釈液を用いて、各ウイルスの感染性を評価する。各ウイルスの感染性を測定するため、各ウイルスの希釈液を用いて、各ウイルスの感染性を評価する。

(抗ウイルス試験)
試験サンプル溶液0.9mlと試験ウイルス液0.1mlを混和し、作用時間の通り放置する。その後、試験液にSMBP-9mlを加え、10倍希釈液を作成し、ブラーク法により作用後のウイルス感染率を測定する。

[試験の結果]

①毒性試験の結果

毒性試験 (インフルエンザ ウイルス)	宿主細胞 (HEK 細胞)への毒性 陽性に対する 抑制率	毒性試験への 地方独立行政法人	宿主細胞 (HEK 細胞)への 毒性試験への 地方独立行政法人
次亜塩素水	無し	無	溝の口支所 〒213-0012 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 KSP西棟6階

注) 毒性試験は、ウイルスの感染性を測定するまでの



②抗ウイルス試験の結果

抗ウイルス試験 (インフルエンザ ウイルス)	ウイルスの感染菌 (H3N2)	抗ウ 活性	試験所：
直接、1分 直接、5分 直接、1分	直接、1分 直接、5分 直接、1分	活性 活性 活性	地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 殿町支所 研究開発部 評価技術センター 光触媒グループ 抗菌・抗ウイルス研究グループ 抗菌試験室 〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町三丁目25番13号
次亜塩素水	<10	C10	5.3

活性時間：×10⁻³を表す。また、ウイルスの感染性は、作用後5分
試験ウイルス液を加入したときの時間で測定した値である。

・ウイルスの放出量：(6 pfu/ml)

・抗ウイルス活性値：Log 10 - Log 0

（活性濃度の濃度）

承認署名者

研究員

石黒



*本報告書の全部又は一部の無断転載・転用は固くお断りします。また、当該報告書を基に広告、カタログやインターネット等に、当法人の名義を使用する事を希望する場合には、使用内容ごとに書面にて事前に相談してください。

*本報告書に記載の試験結果は、提供された試料に対するものであり、ロット全体の性能を代表するものではありません。

試験結果

- ・試験名：ウイルスを用いた抗ウイルス性能評価試験
- ・ウイルス接種日：ネコカリシウイルス：令和2年4月8日、インフルエンザウイルス：令和2年4月9日
- ・試験品の種類：液体(次亜塩素水)
- ・試験方法：ASTM E 1052を参考
- ・無加工品名：PBS
- ・試験品名：次亜塩素水
- ・n数：n = 1
- ・試験ウイルス：
Feline calicivirus F-9株(ネコカリシウイルス、ATCC VR-782)
 宿主細胞：CRFK細胞(ATCC CCL-94)
Influenza A virus (H3N2) A/Hong Kong/8/68株(A型インフルエンザウイルス、ATCC VR-1679)
 宿主細胞：MDCK細胞(ATCC CCL-34)
- ・作用条件：
 作用時間 1, 5 分
 作用温度 室温
- ・ウイルス感染価の測定方法：plaques法
 (毒性試験)
- ・試験の概要
 試験サンプル溶液0.9 mlにPBS 0.1 mlとSCDLP 9 mlを加え、その後10倍希釈系列を作製する。各希釈液を宿主細胞に加えた系列と、ウイルスを添加し宿主細胞に加えた系列を作製する。2~5日間培養し、plaques法により細胞毒性と感染阻害を判定する。
 (抗ウイルス試験)
 試験サンプル溶液0.9 mlと試験ウイルス液0.1 mlを混和し、作用時間の通り静置する。その後、SCDLP 9 mlを加え、10倍希釈系列を作製し、plaques法により作用後のウイルス感染価を求める。

[試験の結果]

①毒性試験の結果

毒性試験 (インフルエンザ ウイルス)	宿主細胞(MDCK 細胞)への毒性	MDCK細胞への 感染に対する影響
次亜塩素水	無し	無し

毒性試験 (ネコカリシ ウイルス)	宿主細胞(CRFK 細胞)への毒性	CRFK細胞への 感染に対する影響
次亜塩素水	無し	無し

注) 毒性試験は、ウイルスの感染価を測定するまでの影響を調べるものであって、製品の安全性を評価したものではありません。

②抗ウイルス試験の結果

抗ウイルス試験 (インフルエンザ ウイルス)	ウイルスの感染価 (pfu/ml)*		抗ウイルス 活性値	
	室温、1分	室温、5分	室温、1分	室温、5分
PBS	-	1.8E+06	-	-
次亜塩素水	<10	<10	5.3	5.3

*'E+06'は、"×10⁶"を表す。また、ウイルスの感染価は、作用終了後SCDLP 9 mlを加えたときの濃度を測定した値である。

- ・ウイルスの検出限界値：10 pfu/ml
- ・抗ウイルス活性値 = Log (B) - Log (C)
 (B:対照品の感染価、C:サンプル品の感染価)

抗ウイルス試験 (ネコカリシ ウイルス)	ウイルスの感染価 (pfu/ml)*		抗ウイルス 活性値
	室温、5分	室温、5分	
PBS	6.0E+06	-	
次亜塩素水	<10	5.8	